

第2回コーポレートアートエイド京都
(CORPORATE ART AID KYOTO)
入選作品



NO.01

LOLLIPOP RITUAL ZOUP

BIBI LEI

(印象派)やFauvisme(野獣派)の絵画に影響を受け。子供たちの自由な意志が、本来の色、反抗心、色彩で表現されている。子どもたちは大地を囲む山のように、カラフルなエネルギーで世界を癒している。色彩豊かな自然を愛する彼女は、色彩に満ちた世界を描き続けている。

キャンバスにアクリル

1310×1940mm



NO.02

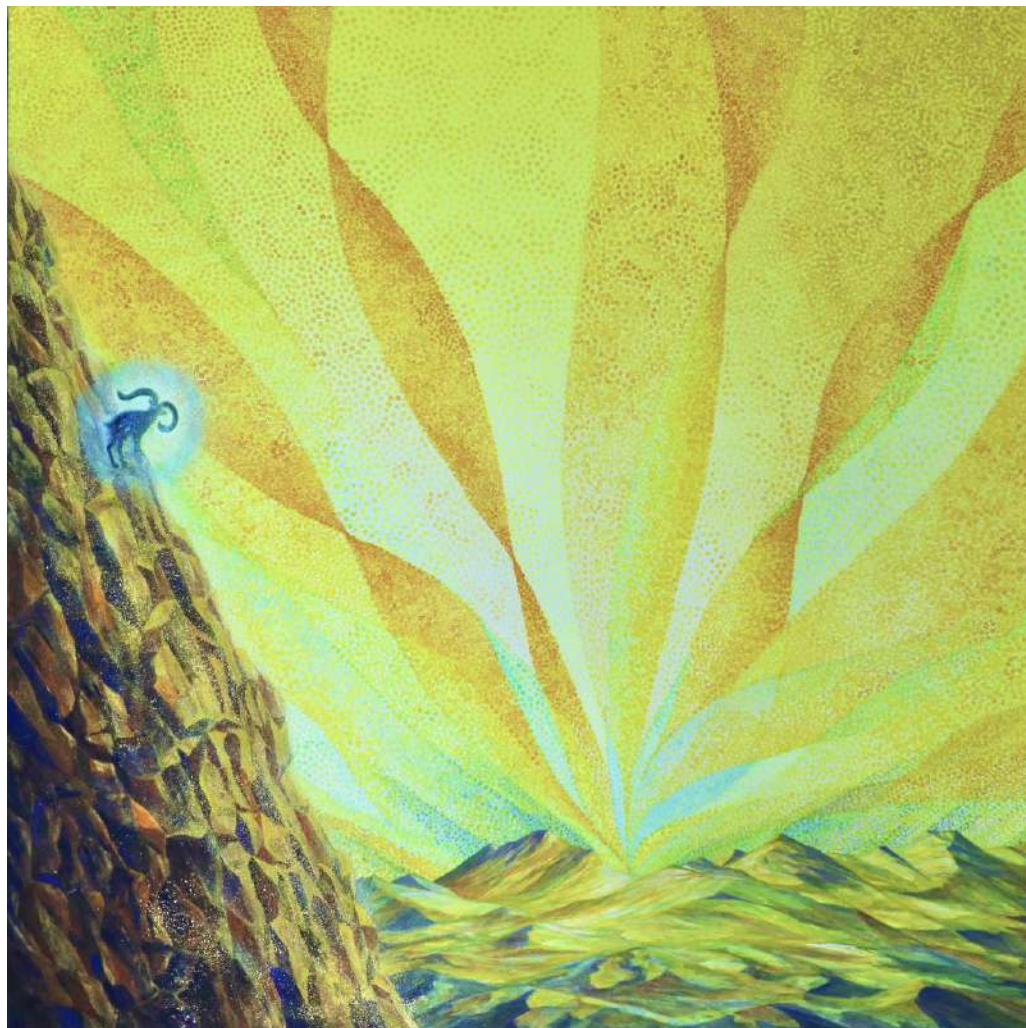
think of far

TOMOMI

愛情の距離感が様々である。何か1つ失ったとしても、全部が壊れてしまわず、別の何かで補完してまた生活が続いていく。

キャンバス、油彩

1120×1455mm



NO.03

Blue Sheep

彩蘭弥 (Alaya)

チベットを旅し、作家が実際に会った青い羊(山羊)Blue Sheepと、目の眩むような朝日。それはまるで西方浄土の景色のようで、その感動を点描で表現した

和紙に和絵具

1000×1000mm



NO.04

炎のキツネ

彩蘭弥 (Alaya)

アイスランドでオーロラを取材し、描いた作品。サーミ族の伝承にある炎の狐が夜空で遊び、光に照らされた柱状節理がぼんやりと輝く。

和紙に和絵具

1000×1000mm

NO.05

日月秋草流景図

伊藤寛人



トルコの伝統芸術であるエブルで染めた極薄の和紙と金銀箔、そして岩絵具による描写を何層にも重ねることで、平面性の中に空間と時間の蓄積を表現することを試みた作品。金属箔・泥と和紙の重なりを効果的に用いることで、展示場の光の変化によって作品自体の見え方にも変化が起こり、違った味わいができるように制作した。

エブルを取り入れた紙本彩色

1620×3909mm (1620×1303mm×3枚組)



NO.06

セレモニー

影山萌子

観光地を撮影した広告用写真をモチーフとしている。描かれているのは架空の観光地の祭りで、リチャードブローティガンの小説もモデルとなっている。

キャンバスに油彩

1940×970mm



NO.07

きのみきのままねまきのまま

加藤健一

油絵絵具を薄く溶いて、下地に染み込ませる
よう鉛筆の形を残して生かして描いています。
小さめの筆を使い、あえて色にムラが出来る
ようにしています。
布団(夢)の中ではいくら動いても夢です。

キャンバスに油彩

1620×1303mm



NO.08

チキンファイヤーキング

加藤健一

鉛筆の線の速度のまま油絵を描くように薄くした絵具で描いています。みんなが王様あって、みんなにせものである。そんな絵です。

キャンバスに油彩

1300×1300mm



NO.09

諸々の音

川原 萌

飼育しているドジョウの感覚を想像し川の流れを描いた。私は、人や動物、人工物、泡など、この世界のあらゆるものには、もの自体が有する独自の時間が流れていると考え、ものから見たものの視点の絵画化を試みた。

紙本着色

1620×3000mm



NO.10

SPECTRUM DRAGON

菊地虹

分散光をテーマに、様々な表現技法を横断しながら、バラツキを絵画の平面上に等価値に扱う絵画を目指して制作した。伝統的なモチーフを現代的な視点で捉え直し、表現している。

キャンバス、アクリル絵具

1120×1455mm



NO.11

眠れない夜 I

三嶋 優

眠ろうとすればするほど、余計に眠れない様子を描きました。何も考えたくないのにチラついてくる意識や、眠れない哀しみを通り越し、身体の中から怒りが込み上げてくるイメージを表現しました。

木パネルに高知麻紙、胡粉、墨、水干絵具、岩絵具、メディウム

2273×1818mm



NO.12

花咲繚乱

寿の色

花咲爺さんが松の大木にあらゆる花を咲かせているイメージを多様な画材で描きました。子どもにも身近な描画材も使用し、その描画材ならではの風合いや発色、いろいろな要素全てがひとつの画面に活かされ収まることを意識しています。

キャンバスにアクリル、油彩、油性ペン、オイルパステル、色鉛筆、鉛筆

1620×970mm



NO.13

あの頃見えていた世界は、
まだここにある

佐藤 紘子

イチゴのタルトケーキの森に、どこかで見たことのある獣たちが迷い込みました。過去と現代を行き来するような世界があります。

油彩、水性アルキド樹脂絵具、キャンバス

1303×1620mm



NO.14

歩いて歩いて

周志雄

壁にある亀裂の不完全の美しさを生命力がある動物で表現したく、この作品はゾウを主体に制作しました。

岩絵の具、水干絵の具、金箔

2273×1455mm



NO.15

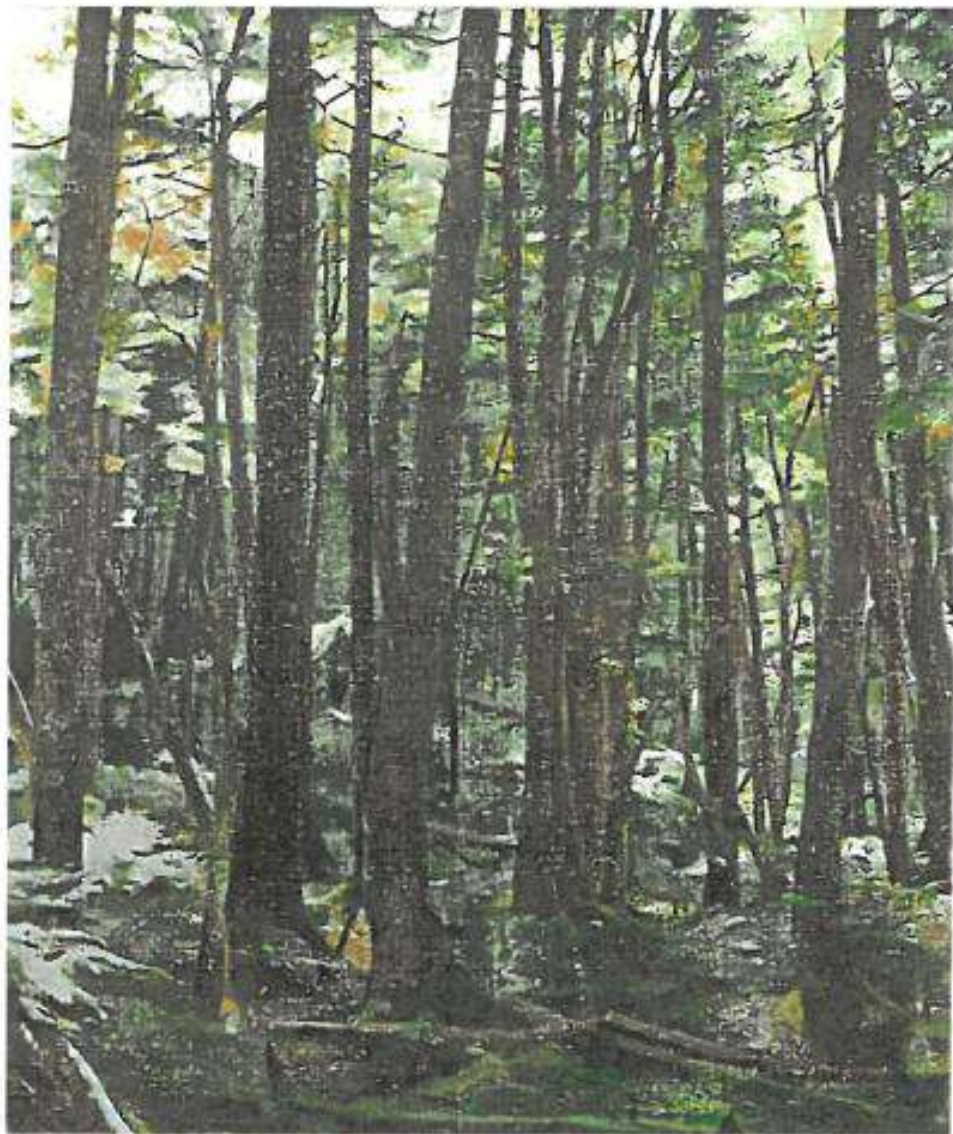
ランドスケール01
Landscape

白石雄樹

手前のものが奥のものと異なる時、視界から奥のものが消える、もしくはイメージが欠損します。遠くに見えるものを含めての風景、下層にある絵の具や筆致を含めての絵画。その場所、空間にアプローチした作品です。

キャンバスに油彩

1940×1620mm



NO.16

ランドスケール02
Landscape

白石雄樹

手前のものが奥のものとは異なる時、視界から奥のものが消える、もしくはイメージが欠損します。遠くに見えるものを含めての風景、下層にある絵の具や筆致を含めての絵画。その場所、空間にアプローチした作品です。

キャンバスに油彩

1940×1620mm



NO.17

Rose Garden of Light

高橋 果歩

キャンバスに油彩

1940 × 3860mm

NO.18

Menyanthes trifoliata I

高橋 果歩

キャンバスに油彩

1120×1620mm





NO.19

泡影

高橋由莉

光とモノと影が作り出す瞬間的な魅力を新たな絵画として浮かび上がらせた。

紙本着彩

1818×2273mm



NO.20

水景紅鶴図(すいけいこうかくず)

竹内昌二

フラミンゴの群れを墨で描きました。銀箔を硫化させ、水面を表現しています。

和紙に岩絵具、墨、銀箔

1600×2600mm



NO.21

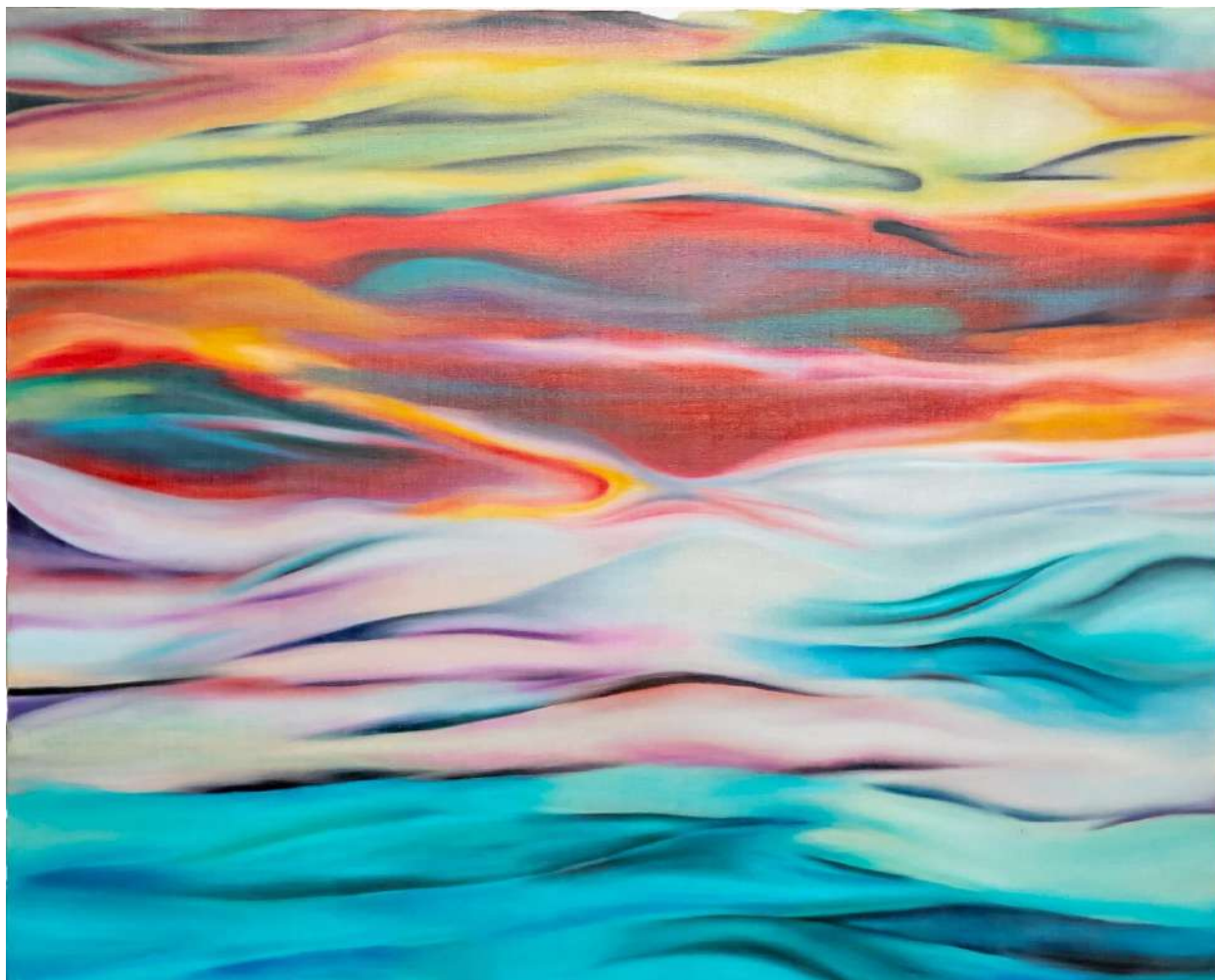
Graviternal Horizon #2

谷 正輝

Graviternalシリーズは重力をテーマにした作品です。その下に偏光塗料を塗った別のパネルを合わせることで、水平線を生じさせた作品です。

ミクストメディア

1000×1800mm



NO.22

夕焼け

津田 翔一

夕焼けを描いた。水平線に沈む太陽である。いくつも存在している水平線に、直線ではない揺らぎの中で存在している世界の向こう側に沈んでいく太陽は世界と生命（力）をダイレクトに表現できるモチーフである。

キャンバスに油彩

1303×1620mm



NO.23

コンパネの絵

中村るつ

黒い絵の具をコンパネに塗り表面をニードリ
で削り描いています

コンクリートパネルにアクリル絵具

1800×2700mm



NO.24

Qualche Notte #7 - 旅の夜 -

沼田 愛実

「こんばんは」「おやすみなさい」「良い夢を」と言葉を交わす人々。次第に街の明かりは消え、暗くなり夜空の星がよく見え始めた頃、一つの星座が現れる。

パネル・キャンバス・油彩

1303×1620mm



NO.25

まねっこ

ネイネイ

アクリル絵の具、キャンバス、パネル、銀箔

1620×1620mm



NO.26

The Blazing Spring

橋本 健

広い空の色、桜の色、ミモザの色、新緑の色、
光に包まれた世界は希望で溢れている。生きる
心地によって春は燃え盛る。

キャンバスに油彩

1620×1620mm



NO.27

村雨の廊下

橋本 奉

大覚寺の正寝殿から心経前殿に向かう廊下周辺の景色、『村雨の廊下』を描きました。画面に対する適切な細密描写と現場の空気感を再現することを意識した制作を行いました。

キャンバスに油彩

1120×1455mm



NO.28

My Diary 2023 I

平野 えり

言葉に表しきれない日々の想いを線に込め、
“今現在ここに生きている瞬間”を制作のテーマ
とし描いています。

ミクストメディア、紙、パネル

1644×1964mm



NO.29

真実

松川愛

<白>を各色に対して大量に使った作品。AIが発達した現代のテクノロジー社会は時に扱い方を誤ると情報に飲み込まれてしまいます。その時私たちは真実を見失わないために自分の心に頼る必要があります。キャンバスに描いたうごめく色は、進化する多くの情報を表現しており、ここで使った白はまさに心の役割をしています。

白を使うことで色同士に調和が起こるように、私たちは日々心を使うことで直感的に価値や真実を見極める事ができるのです。

キャンバスに油彩

1400×1000mm



NO.30

山車

宮腰 衛

作品『山車』は「ありふれた日常」という組作品の中の1枚である。人々のあるがままの姿や今あるものだけに心を向けて生きていく姿に目を向け、日常とはどんな存在なのかを自問自答しながら描き上げた作品である。

パネルに油彩

1455×1120mm



NO.31

マチ口に、サゆら、コ

森 綾乃

薄い布を何層にも重ねては描き、
繰り返すことで見え隠れする空間や
時間の蓄積を探し、追いかけている

ミクストメディア
(木製パネルに布・アクリル・水彩)

1300×1620mm



NO.32

と、ハルリ、ルル

森 綾乃

のびやかにだらしなく
刻々と流れる空間の、何気ない気配と
向き合う時間を大切にすくいとる

ミクストメディア
(木製パネルに布・アクリル・水彩)

1300×1620mm



NO.33

野焼き

山中 翔

北九州市平尾台で毎年2月に実施される野焼きを取材しました。

紙本着彩

1818×2273mm



NO.34

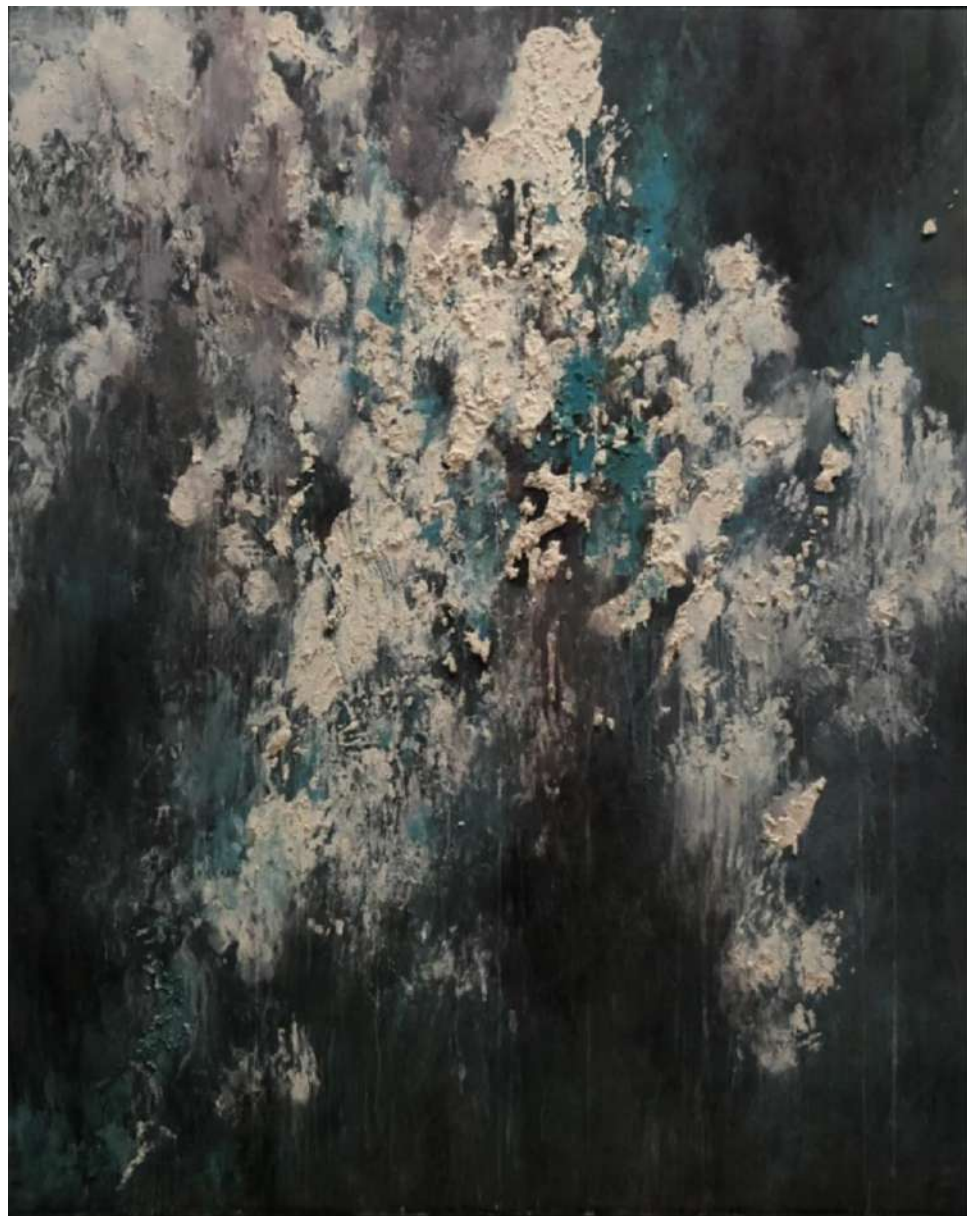
花と苑と死

和田 華苑

時間と共に積み重なり、剥落し、私は形創られていく。

木材パネルに紙本著彩
(岩絵具、水干絵具、有機石灰)

2000×1000mm



NO.35

00

和田 華苑

1つの星が始まりと結ばれた時、そこには限らない無が広がる。

木材パネルに紙本著彩
(岩絵具、水干絵具、有機石灰、鏝)

2303×1848mm